

第2章 竜王町の現状と課題

1. 地域福祉における今後の課題

(1) 人口構造の変化が続いているため、将来に向けて対応していく必要があります。

統計データ	▼令和2年（2020年）時点の総人口は11,789人で、高齢化率は28.2%となっています。総人口の減少と高齢者の増加は今後も継続する見込みです。 ▼今後は特に、85歳以上人口の増加が急速に進む見込みです。 ▼各年代の総人口に占める割合を国や県と比較すると、本町は60～70歳代前半の割合が高く、40～50歳代前半の割合が低くなっています。今から20年後には、75歳以上の割合が高く、20～40歳代の割合が低くなることが予測されています。
-------	--

(2) 世帯構造の変化により、家族が担ってきた支えあいの機能が低下している可能性があります。

統計データ	▼人口減少が進む一方で世帯数は増加しており、世帯あたりの人員数が少なくなっています。 ▼高齢者の増加に伴い、高齢単身世帯や高齢夫婦のみの世帯も増加しています。高齢単身世帯は、平成27年（2015年）から令和2年（2020年）の5年間で約2倍に増加しています。
アンケート	▼病気の時や災害時など、いざという時に助けてくれる人が近くにいるかどうかについて、8割近くの方が「いる」と回答しています。

(3) 地域のつながりが希薄になっており、孤立する可能性の高い方が増えているため、困りごとをすくいあげられる仕組みを構築する必要があります。

統計データ	▼単独世帯の増加および高齢単身世帯の増加が進んでいます。
アンケート	▼全体の約3割がご近所づきあいをあまりしていないと回答しています。 ▼特に一人暮らしの場合に近所づきあいの希薄化が顕著で、約4割があまりしていないと回答しています。 ▼ご近所との関わりが希薄な場合、支援が必要な場合でも、地域の中で自身の情報をあまり知られたくないという回答傾向がみられます。 ▼一方で、ご近所との関わりが希薄な場合、行政や社協など、公的機関による支援を求める回答傾向もみられます。

(4) 町全体の高齢化に伴い、地域活動に様々な人が関わる環境づくりが必要となっています。

アンケート	▼地域活動等の参加状況については、若い世代ほど参加していないという回答が多くなる傾向がみられ、特に、20歳代は約6割、30歳代は約4割の方が参加していないと回答しています。 ▼地域活動等に参加できない理由としては、仕事や家事・育児のために時間がないという回答が特に多くなっています。
-------	---

(5) 複合的な課題を抱える方に対して、分野横断的に対応できる体制を整える必要があります。

統計データ	▼要介護認定者数は令和2年（2020年）時点で573人、認定率は17.4%となっています。今後も継続して増加する見込みで、特に重度（要介護3以上）の人数が急速に増加する見込みとなっています。 ▼ひきこもり者数は、全国調査による出現率や民生委員児童委員が回答した調査から約50人と想定されます。 ▼生活保護被保護世帯率の割合は全国平均より低いですが、生活保護制度だけではなく、制度外の支援も必要な世帯が多くあります。
アンケート	▼生活の困りごとを所得段階別でみると、所得が低くなるにつれて健康や介護、住まいや就労など、様々な困りごとを抱えている割合が高くなっています。

(6) 自治会同士の連携やまち全体での協力、他のまちとの協力など、より広いつながりの視点を持って地域福祉を進めていくことが求められます。

統計データ	▼近隣市に人口集中地区が点在しています。
アンケート	▼自治会において継続して福祉活動を進めていくために、全体の4割が近隣自治会との連携を進めたい、3割が町全体の自治会が一体となった形で進めたいと回答しています。

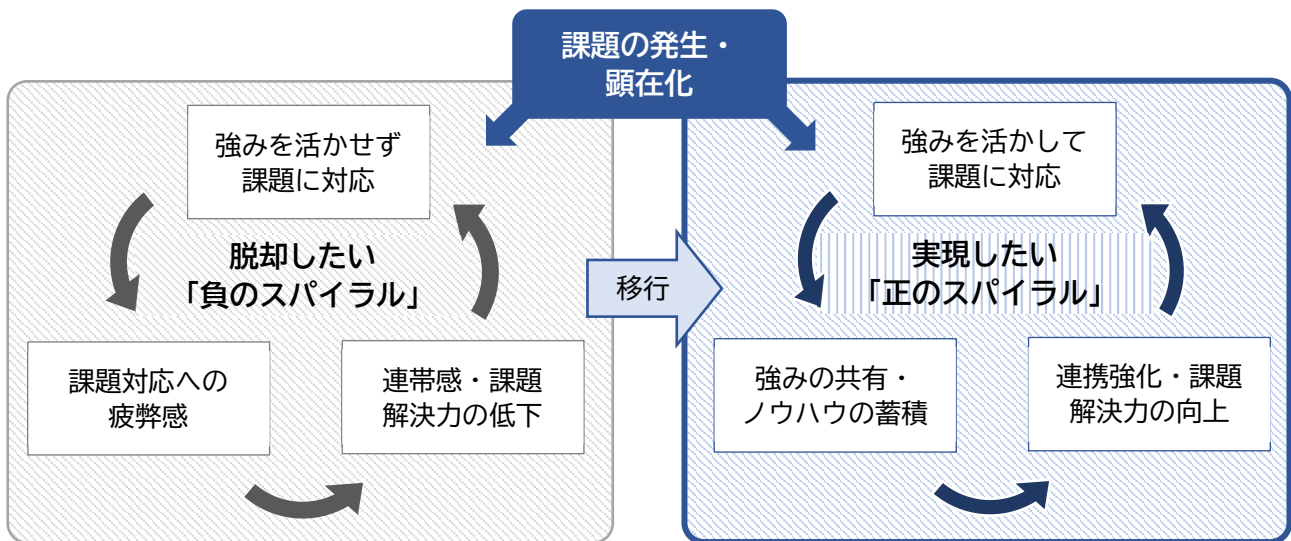
2. 課題を解決するための本町の強み

(1) 課題に対応するための「強み」について

人口減少と少子高齢化が進行する昨今の社会情勢より、将来への不安が大きくなるとともに、新たに発生した問題に対して悲観的になることが懸念されます。

そのような中で、今後も活力あるまちづくりを展開していくためには、まちが有する「強み」を活かしながら課題に対応していく考え方が重要となります。

■実現したい「強みを活かした正のスパイラル」のイメージ



(2) 竜王町の持つ「強み」

本町には、以下のような強みがあると考えられます。計画の推進にあたっては、これらの強みを活かした取組を進めていくことが重要となります。

①人口構造

- 5歳きざみの人口比率は、5～9歳、10歳代、20歳代前半にかけて全国平均より高い。また、60歳代も全国平均より高い
 - ➡10歳代のエネルギー、60歳代のセカンドキャリアを活かすチャンスがある
- 後期高齢者率が全国平均より低く、重度の要介護者の割合が低い
- 一人暮らし高齢者率が全国平均より低い
 - ➡現時点で支援を必要とする人が少なく、十分な準備ができる

②人の往来

- 町周辺に人口集中地区（市街地）が点在しており、地理的にアクセスしやすい
 - ➡近隣市から働き手、担い手の確保がしやすい、近隣市に近居の親族が比較的多くおり、町外からの協力が得やすい
- 名神高速道路をはじめ、物流の拠点であり、企業の操業率が高い
 - ➡昼夜間人口比率が高く、人口以上の人の往来がある

③住民性

- 人口規模が小さく、顔の見える関係をつくりやすい
- 持ち家率が高く、資産形成の中で住まいの保障がなされている
- 高齢者の就労率が県内でも高く、勤勉性が高い
- 生活保護被保護世帯率が全国平均より少ない
 - ➡絶対的貧困層の割合が少ない

④住民自治

- 惣村を起源とした自治会があり、自主的に運営に取り組んでいる
- 自治会等の地域単位での活動に参画したことがある住民が多い
- 多くの自治会で集いの場を運営している

⑤気候・自然

- 数ある自然の脅威の中でも、他の市町村に比べて、豪雪、津波のリスクが低い
 - ➡台風による大雨や地震による災害を中心に対策を考えやすい

⑥専門職・専門機関

- 高齢分野のグループホームのように、小規模で地域密着型の施設が多い
- 家庭医をめざす医師の養成を請け負う診療所や、比較的若い職員が働く障がい者作業所など、学びややりがいをもっとに人材を確保している事業所がある
- 自治体域が中学校区のため、専門職間の顔の見える関係がつくりやすい